

求人サイト利用についての自主調査

雇用形態や制度の変化が急激に進む中、求人産業が大きく成長し、求人サイトの利用が高まっています。

正社員、派遣、アルバイトといった雇用形態によって、求人サイトの利用状況や、サイトに期待される機能は異なっているのでしょうか。

また、求職者はモバイルサイトとPCサイトをどう使い分けているのでしょうか。

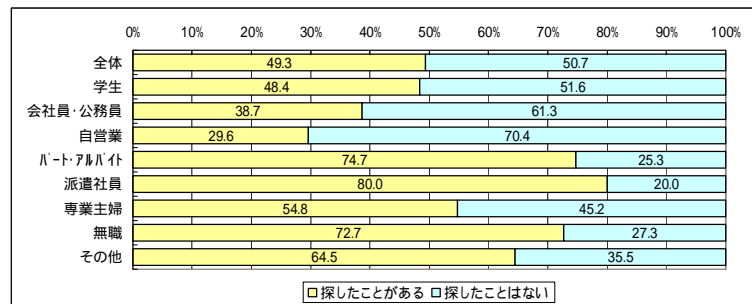
ネットエイジア株式会社は、15歳から49歳の首都圏在住男女を対象に、求人サイト利用についてのモバイル調査を行いました。

1. 求職経験

全体の約半数が2年以内に求職活動をしている。

職業別では、派遣社員(80.0%)、パートアルバイト(74.7%)、無職(72.7%)で求職率が高い。会社員、自営業では低かった。

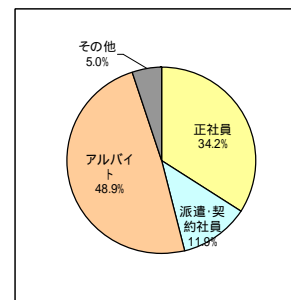
Q. あなたは2年以内に求人情報を探したことがありますか。



2. 求職経験者が探した雇用のタイプ

求職経験者が探した雇用のタイプは、アルバイト48.9%が最も多く、正社員が34.2%、派遣・契約社員が11.9%、その他(パートなど)が5.0%であった。

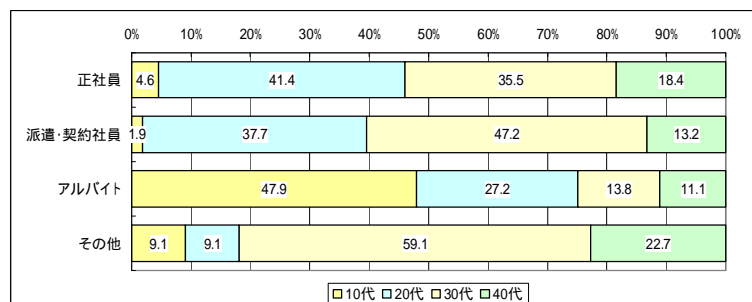
Q. あなたが2年以内に探した求人の就業形態を以下の中からお選びください。



求職タイプ別の年齢構成を見ると、

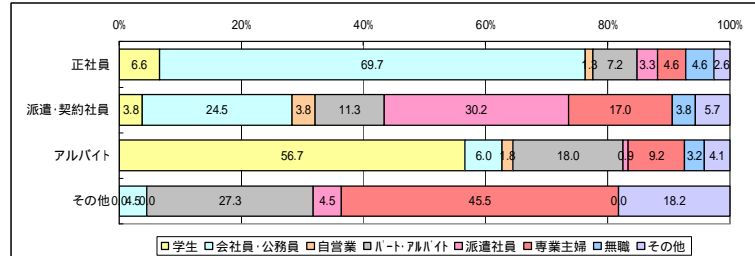
正社員、派遣・契約社員は20代と30代で8割程度。アルバイトは10代と20代で8割程度を占める。

Q. あなたが2年以内に探した求人の就業形態を以下の中からお選びください。



求職タイプ別に見ると、
 正社員の求職経験者の約 7 割が正社員、それ以外の職業はどれも 10%以下であった。
 アルバイトの求職経験者は 6 割近くが学生、パート・アルバイトが 2 割だった。
 派遣・契約社員の求職経験者は、現職の派遣社員が 30.2%。24.5%が会社員・公務員だった。また、パート・アルバイト、主婦も 10%以上ある。派遣・契約社員は、さまざまな職業で求職対象と考えられているようだ。
 その他（パートなど）は、専業主婦、パート・アルバイトが多かった。

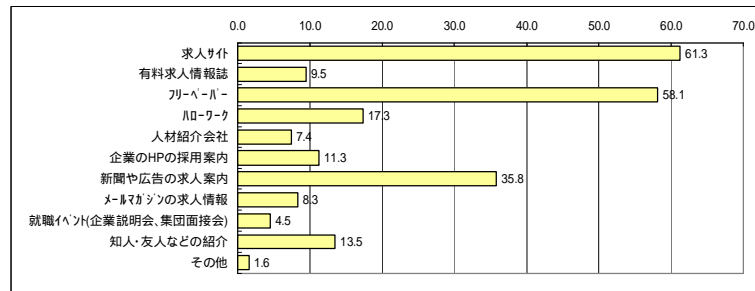
Q. あなたが 2 年以内に探した求人の就業形態を以下の中からお選びください。



3. 求職活動の方法

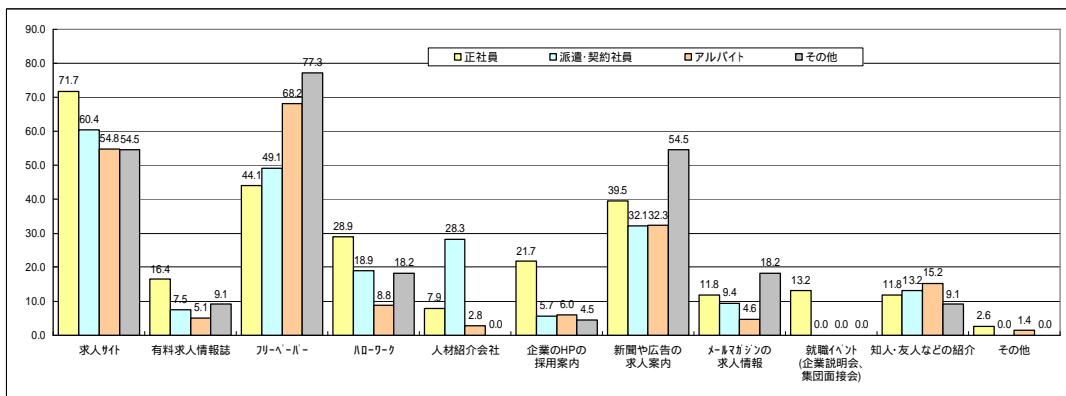
求職活動の内容は、「求人サイト」が最も高く 61.3%、「フリーペーパー」58.1%、「新聞や広告の求人案内」35.8%が続く。

Q. どのような経路で求人情報を探しましたか。当てはまるものを全てお選びください。（いくつでも）



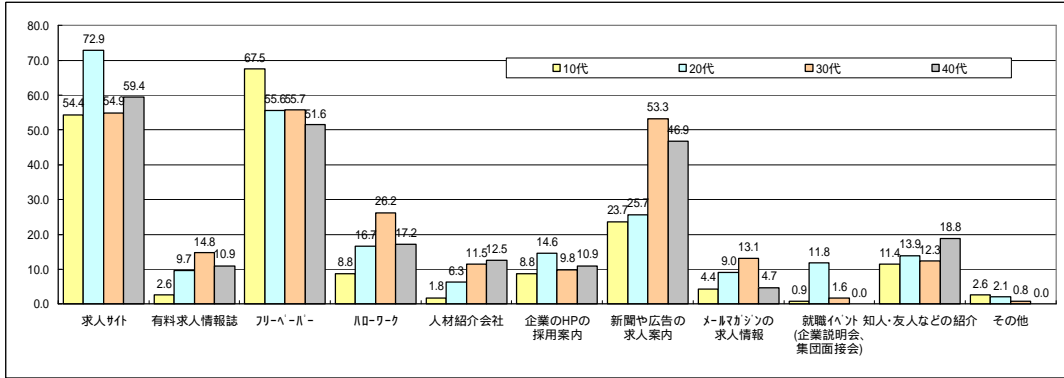
求職タイプ別に見ると、
 正社員求職者の 1 位は「求人サイト」、2 位が「フリーペーパー」だった。
 「求人サイト」、「有料求人誌」、「新聞や広告の求人案内」、「企業の HP の採用案内」、「就職イベント」の利用が他のタイプに比べて高い。
 派遣・契約社員求職者の 1 位は「求人サイト」、2 位が「フリーペーパー」だった。
 「人材紹介会社」の利用が他のタイプに比べて高い。
 アルバイト求職者の 1 位は「フリーペーパー」、2 位が「求人サイト」だった。
 「フリーペーパー」の利用が他のタイプに比べて高い。
 その他（パートなど）の 1 位は「フリーペーパー」、「求人サイト」、「新聞や広告の求人案内」が同率で 2 位だった。

Q. どのような経路で求人情報を探しましたか。当てはまるものを全てお選びください。（いくつでも）



年代別に見ると、
 10代は「フリーペーパー」の利用が高いのが特徴的。
 20代では「求人サイト」の利用が72.9%と、4世代中最も高い。
 「新聞や広告の求人案内」の利用は30代、40代で高かった。

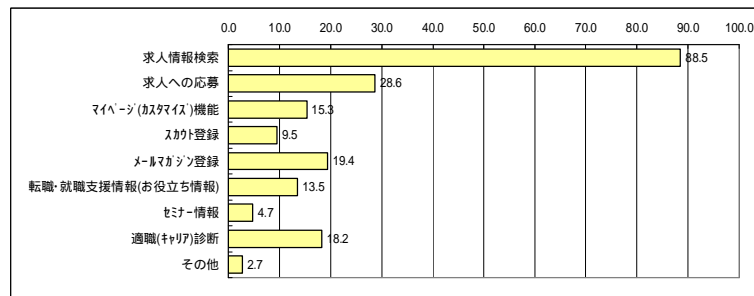
Q. どのような経路で求人情報を探しましたか。当てはまるものを全てお選びください。(いくつでも)



4. 求人サイトの利用サービス

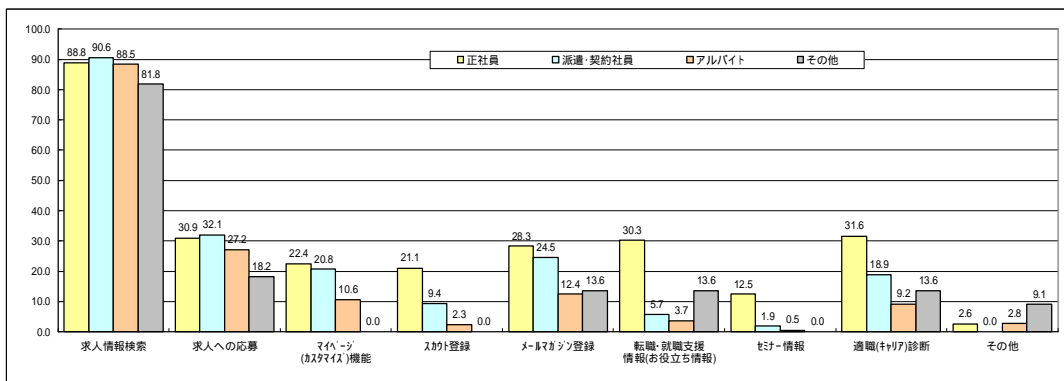
求人サイトで最も利用されているサービスは「求人情報検索」の88.5%。次いで「求人への応募」28.6%、「メールマガジン登録」19.4%が続く。

Q. 求人サイト内で利用したことのあるサービスを全てお選びください。(いくつでも)



求職タイプ別に見ると、
 正社員は多くのサービスを活発に利用している。「スカウト登録」「転職・就職支援情報」「セミナー情報」「適職診断」は正社員の利用度が非常に高い。
 派遣社員は「求人情報検索」「求人への応募」「メールマガジン登録」などのサービス利用度が高い。

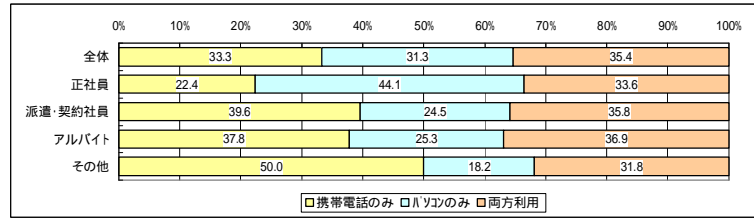
Q. 求人サイト内で利用したことのあるサービスを全てお選びください。(いくつでも)



5. 携帯サイトとPCサイトの使い分け

携帯サイトとPCサイトの使い分けでは、「携帯電話のみ」「パソコンのみ」「両方」ほぼ同率だった。求職タイプ別に見ると、正社員ではパソコンの比率が高く、正社員以外は携帯電話の比率が高い。

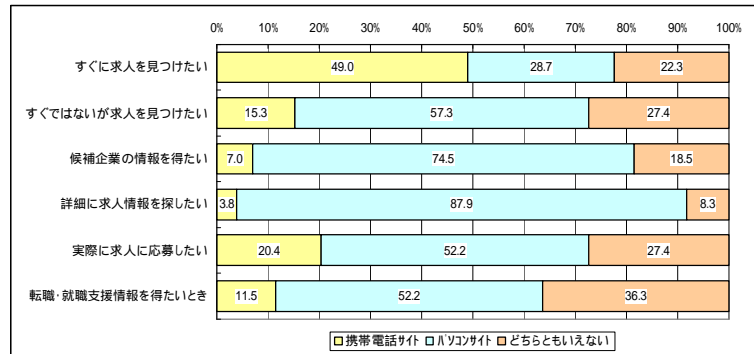
Q. あなたは求人サイトを見る際、携帯電話とパソコン、どちらを利用しますか。



6. 利用目的による携帯サイトとPCサイトの使い分け

携帯電話とパソコンの両方を利用する人を対象に、目的による使い分けを調べたところ、「すぐに求人を見つけたいとき」は49.0%が携帯電話を利用するが、「すぐにはないが求人を見つけたいとき」は57.3%がパソコンを利用する。「候補企業の情報や詳細な求人情報の探索」はパソコン中心で、携帯電話の利用は非常に少ない。

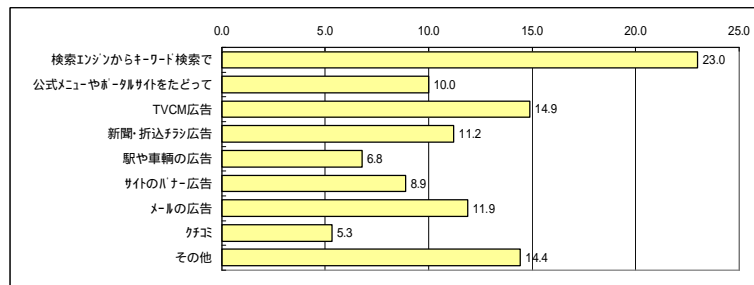
Q. 以下にあげた状況でパソコンサイトと携帯サイトのどちらを利用しますか。当てはまるものをそれぞれお選びください。



7. 最も印象に残る求人サイト

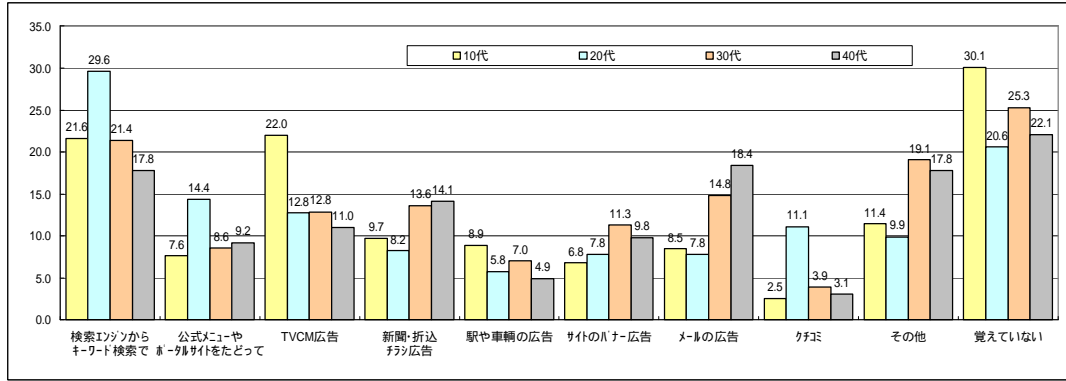
最も印象に残っている求人サイトの認知経路を調べたところ、「検索エンジンからキーワード検索」が23.0%と最も高く、次いで「TVCM 広告」が14.9%、「メールの広告」が11.9%、「新聞・折込チラシ広告」が11.2%であった。

Q. 最も印象に残っている求人サイトをどのようにして知りましたか。当てはまるものを全てお選びください。(いくつでも)



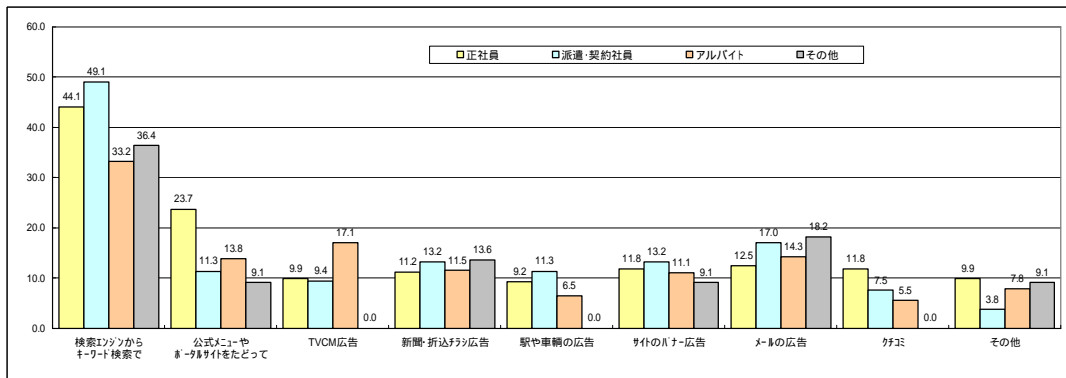
年代別に見ると、10代は「TVCM」が高い。20代では「検索エンジンから」と「公式メニューやポータルサイト」といったパソコン経由が高い。他の年代に比べ「検索エンジンからキーワード検索」と「クチコミ」の比率が高いのが特徴的。

Q. 最も印象に残っている求人サイトをどのようにして知りましたか。当てはまるものを全てお選びください。(いくつでも)



求職タイプ別に見ると、
正社員は「公式メニューやポータル、サイト」が他のタイプに比べて高いのが特徴的。
アルバイトでは「TVCM」が他のタイプに比べて高いのが特徴的。

Q. 最も印象に残っている求人サイトをどのようにして知りましたか。当てはまるものを全てお選びください。(いくつでも)

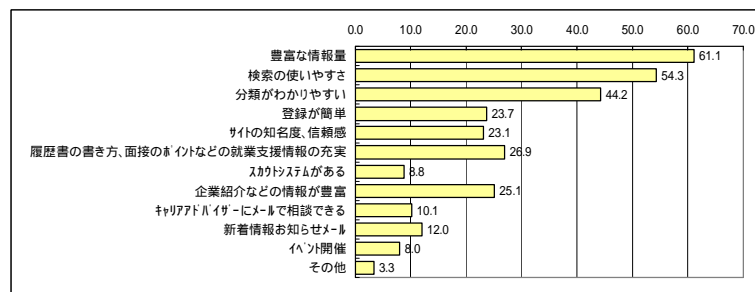


8. 求人サイトで充実させてほしいサービス

求人サイトで充実させて欲しいサービスの上位5つは、「豊富な情報量」61.1%、「検索の使いやすさ」54.3%、「分類がわかりやすい」44.2%、「就職支援情報の充実」26.9%、「企業紹介などの情報が豊富」25.1%だった。

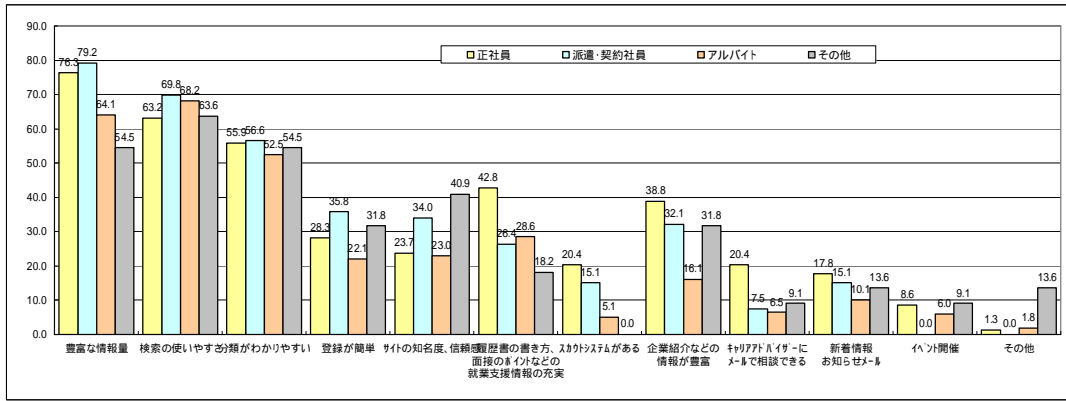
「情報の充実」と「使いやすさ」についてのニーズが上位に挙げられている。

Q. 求人サイトで充実させて欲しいサービスを以下の中から全てお選びください。(いくつでも)



求職タイプ別に見ると、
「就業支援情報の充実」は正社員のニーズが高い。
「登録が簡単」「サイトの知名度・信頼度」は派遣・契約社員で高い。
「スカウトシステム」は正社員と派遣・契約社員でニーズが高かった。

Q. 求人サイトで充実させて欲しいサービスを以下の中から全てお選びください。(いくつでも)



9. 調査概要

調査期間：2007年5月10日～14日
 調査対象：全国 / 女性 / 15～49歳
 サンプル数：900サンプル
 調査方法：モバイルリサーチ
 実施機関：ネットエイジア株式会社

10. サンプル構成

